

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	やの しんご 矢野 晋吾	印	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	まなべ かずふみ 真鍋 一史	印	青山学院大学総合文化政策学部
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	AYGa-110703-0	6	

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生は、自ら先行研究の収集を行い各自のテーマを決定し、調査項目を立て、インタビュー調査を実施した。また参与観察にも自発的に臨んだ。収集した資料は、調査チーム内での共有を行いながら、各自が報告書原稿を構成し執筆した。概ね調査の全般にわたって学生の主体性が発揮されたと考えられる。

## II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：現代の地域生活を支える、主として自治的な仕組みとその経時的変化、現在の機能を明らかにし、今後の地域社会のあり方を考える。手法としては、地域社会学・環境社会学の方法論を用いる。

2. 調査の内容/概要：大学所在地である東京都渋谷区付近の地域を対象として、文献及びインターネットによる資料収集を行い、その上で、町内会行事への参与観察及び、地域住民へのインタビュー調査を実施する。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：まず地域の自治活動の全体像を明らかにするため、町内会関係者をはじめとした、対象地域で自治的な活動を担ってきた中核の方々を対象に聴き取り調査を実施する。そこで得られた情報をもとに、学生のテーマに応じて他各活動のキーパーソンを中心とした地域住民にインタビュー調査を行う。

4. 主な調査項目：地域社会を支えてきた伝統的自治組織の種類及び機能、その経時的変化、現代の役割、地域社会における意味についてインタビュー調査を実施する。

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：学生が各自のテーマに基づいて作成した質問紙をもとに、自ら話者にアポイントを取り、インタビュー調査を行った。また、祭礼や町内会活動などの参与観察を実施した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：4月より文献資料等の収集を開始し、7月より本調査を実施。調査地は東京都渋谷区氷川地区・氷川町会、調査員は6人で実施した。

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：インタビュー及び参与観察によるデータに加え、統計資料、行政資料など文献資料を収集した。半年の時間をかけてほぼ毎週のように調査を実施したため、一定レベルの質的データを得ることができた。

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：収集したインタビュー資料は、カード化を行って整理した。その上で、各自のテーマに基づいて、先行文献に照らしながらデータを構成し報告書を作成した。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：都市部の町内会の活動実態や担い手の質的な把握は、既存の文献資料などでは得られない情報と考えられる。また、調査地の戦時中の状況についての座談会などで、都市部の戦時下の生活についても一定の資料を収集し提示することができた。

10. 報告書刊行の予定と概要：2012年3月末日に報告書を刊行済みである (A4版約120頁)。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の\*印の箇所には数字を(「\*/」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。